

**平成29年震災復旧・復興
先進地実態調査研修報告**
福島県南相馬市及び二本松市

平成29年10月19日～21日
議員12名、職員2名、事務局2名

東日本大震災及び福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を受けた福島県南相馬市及び二本松市において、災害後6年の復旧・復興状況と課題を調査し、議会の対応力強化、住民生活の安定化への取り組み等を研修した。

まず、二本松市で県が整備した復興公営住宅を視察。鉄骨造3階建てで、1階は高齢者仕様の全6棟、200戸分。整備方法は買取型ということである。

特に3、4号棟は木材を多く使用した木質化集合住宅であった。この買取型は工期が短いのが最大のメリットである。現在、県内15市町村に4890戸整備予定、内約3900



二本松市の復興公営住宅



南相馬市議会議場にて

戸が完成している。

南相馬市では被災状況や、復旧・復興、住民生活の安定への取り組み、議会の災害対応力強化等について担当課より説明を受けた。その中で、震災の影響により市外へ流出した人口のうち、9割超が50歳以下で子ども、若者の教育環境、地域コミュニティの運営、医療介護に悪影響のおそれがあり、一定の人口規模を維持するだけでなく、定住対策や企業誘致等を積極的に進め、市民の力を生かした持続可能なまちづくりを目指している。

今回の研修を参考に、村民、行政、議会一体となって熊本地震からの創造的復興に取り組んで行かなければならない。

**有害鳥獣対策にかか
る先進地実態調査研修**
【経済建設常任委員会】

平成29年11月6日～8日
委員4名、農政課2名、事務局1名

熊本地震後に今まで害獣被害のなかった地域に、被害が発生した。何らかの対応策はないかとの事から今回、GPSを使ったセンサーネットワークにより農地等への鳥獣害防止に効果を上げている長野県塩尻市と、効果的な捕獲事業の取り組みを行っている小諸市を研修。

熊本県町村議会広報研修

平成29年11月16日
委員6名、事務局2名

熊本県市町村自治会館で行われた町村議会広報研修会に参加。

研修会は、5町村が同席し、各議会の広報紙に対して意見を述べるといった形式で行われた。

議会広報紙は、住民の方への議会の報告であり、分かりやすくまとめる事が重要である。企画・特集の重視、視覚的でインパクトのあるレイアウトなどで構成するといった内容

狩猟と駆除では目的が違うので、被害を受けた農家や住民が一致団結して取り組むことが必要である。



捕獲された害獣の解体施設（小諸市）

を研修。

住民の皆様が手にとって頂くような広報紙作りに今後も取り組んでいきます。



質問に答える丸野委員長